

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170100937		
法人名	株式会社 ツクイ		
事業所名	ツクイ札幌山鼻グループホーム 太陽		
所在地	札幌市中央区南14条西18丁目5-1		
自己評価作成日	平成31年3月25日	評価結果市町村受理日	平成31年4月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_006_kihon=true&jigyosyoCd=0170100887-00&PrefCd=01&VersionCd=006
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成31年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成30年12月1日に事業所が移転し、明るく、暖かい事業所になりました。移転後の混乱も数週間続きましたが、新しい環境にも皆様馴染んでおられます。移転後は協力医院が隣となり、24時間迅速な対応より可能になりました。設備に関しても全居室にエアコンが完備され、夏は涼しく・冬は暖かく快適に過ごせ、重度の方でも入浴ができるようリフト浴が設置されました。サービスとしてはご入居者様には外出の機会を多く持って頂くために、外出行事多く企画しております。又、天気の良い日は散歩に出かけ外気に触れる機会を取り入れております。今後はボランティアの受入れにも力を入れ、入居者様が楽しめるイベントを増やしていきたいです。また、ご入居者様だけではなく家族も参加し楽しめる行事も企画していきます。 また、グループホーム内で共用型のデイサービスを実施している為、将来グループホームの入居を検討されている方が、デイサービスを利用しながら待機して頂き、環境の変化が最小限に入居する事が可能です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ツクイ札幌山鼻グループホームは、市電「西線14条」停留所から徒歩7分の住宅街に建設された複合施設の2階にある「太陽」と「ひまわり」の2ユニットのグループホームである。同一建物内には、サービス付き高齢者向け住宅、通所介護、訪問介護があり通所介護との交流もある。道路を挟んだ向かいには、幌自自転車公園や保育園がある。以前は、高齢者住宅を改修した建物であったが移転したことにより、ワンフロアに2ユニットの配置が可能となり利用者間の交流や合同イベントを楽しめるようになった。移転直後は、環境の変化により、落ち着かなくなったり不眠傾向がみられた利用者も馴染みの職員との絆を抛り所に現在は、落ち着いた生活をしている。全ての居室にエアコンがあり「太陽」にはリフト浴ができる機器が設置されている。それにより、職員1名で重度化した利用者の全身浴を安全・安心して介助することができるようになった。運営推進会議の場で家族からの意見も積極的に運営に反映させている。また職員には、自由記載方式のアンケートを配布し業務内容の見直しをしている。事業所が地域資源として認知され、地域住民との交流を図っていくことが今後の課題である。そのために、理念の「ともに・楽しく・すこやかに」の「ともに」は、利用者、家族、地域住民、職員であることを再考し、地域密着型サービスの運営方針を事業所全体で共有することを目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(太陽)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者一人ひとりが地域とのかかわりを持ち健やかに生活を送れるよう支援している。理念は事業所内に掲示している。	「ともに・楽しく・すこやかに」という理念のもと認知症ケアを行っている。現在は、事務所に掲示しているが利用者、家族、地域住民、職員が共有できるよう複数の場所に掲示する予定である。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度も、伏見小学校の生徒達の体験学習を受入れ、交流を持つ機会がありました。まだまだ地域とのかかわりが不足しているのが課題です。	移転したため地域とのつながりを築いていくことが課題となっている。今後は、町内会に加入し地域の一員として交流することを目指している。歌や演奏ボランティアが一組定期的に来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、ご家族の方に事業所で実施している研修を発表しております。ご家族の方にも理解を深めております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回、運営推進会議を開催しサービス提供の内容報告を行っている。参加家族からのご意見は頂いているが、参加できない方からもご意見を頂ける工夫が今後は必要。	平成30年度は、5回開催している。利用者、家族、地域包括支援センター職員、事業所職員が参加し主に運営状況の報告をしている。平成29年度の外部評価の報告が行われていないので今後は、今回の外部評価報告を議題とする予定である。	平成29年度目標達成計画の「地域住民の参加」を実現できるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター職員には2か月に一度の運営推進会議に参加して頂いている。保護課担当職員とも来訪時や電話連絡をとり、協力関係を築いている。	中央区役所介護保険課には、認定有効期間の更新手続きや介護事故報告書の提出などで訪問している。今後は、市町村や地域包括支援センターに課題である「地域交流」について相談していく予定である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束及び虐待に関する指針をもとに、GH全体会議の中で、定期的に身体拘束に関する勉強会の時間を設けている。スピーチロックなど、何気ない言葉かけが拘束に繋がる意識が、まだまだ足りないと感じる。	「身体拘束廃止マニュアル」があり禁止の対象となる行為を記載している。平成30年4月と8月の2回身体拘束禁止委員会を開催し議事録を保存している。2ユニットの入り口は内側からは出られないよう施錠している。今後は、解錠できる時間帯を検討する予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束及び虐待に関する指針をもとに、GH全体会議の中で、定期的に身体拘束に関する勉強会の時間を設けている。スピーチロックなど、何気ない言葉かけが拘束に繋がる意識が、まだまだ足りないと感じる。		

ツクイ札幌山鼻グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(太陽)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を活用されている方は現在いない。キーパーソンの高齢化にともない、必要な方へは制度の説明を行い、いつでも活用して頂けるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書を読み合わせて説明を行い、質問には丁寧にお答えし理解、納得をして頂けるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時には会話の場を持ち要望や苦情を聞き改善している。直接、言いづらい方の為に共用ホールに意見箱を設置している。	運営推進会議では、利用者の家族から本人の生活歴や趣味、嗜好などの話を聞くことがあり、介護に活かしている。介護に関する書籍の寄贈もある。意見箱は設置しているが口頭での意見交換が多い。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員にアンケート用紙を配布し、全体会議で意見交換や伝達などを行っている。管理者だけではなく、本部長・エリア統轄の連絡先を掲示し対応できるよう配慮している。	アンケート用紙は、無記名自由記載方式である。業務内容の見直し提案される時は、会議で検討し運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業契約更新時に個別の面談を行っている。日頃から出勤している職員には、少しでもコミュニケーションをとるように意識し、仕事の様子や表情など注意している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場全体で不足している部分を主に、研修や伝達を実施しているが、個別に対しての研修が十分ではない為、今後は内外問わず参加できるように努めます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会へ参加し意見交換を行い互いにサービス向上につなげてます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(太陽)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用開始前に施設見学をして頂いたり、実際に来る事ができない方へは訪問し、本人の声を聴き今後の生活について十分話す機会を設けてます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のみの面談や電話での相談を受け付けている。サービスを利用する不安や今後の生活での要望を伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様との面談にて必要としている支援を聞き入れると共に状況、状態を見極め市町村独自のサービスの利用も取り入れられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様一人ひとりの生活歴を大切に得意な事、出来る事を一緒におこなっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2ヶ月に一回「ふれあい便り」を送付し、家族が見られないグループホームの生活をお知らせしている。またご家族も参加できる行事を企画し、参加頂けるようお声がけしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が希望された所へ自由に電話が掛けられるようにしている。知人が来訪された時は、ゆっくりと自室や談話室を使用して頂けるよう支援している。	隣近所に住んでいた友人が訪ねて来ることもある。年末年始には、親戚一同が会いに来ることがありその際には、広い談話室を開放し寛いで過ごせるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やレクリエーションなどで、利用者同士が一緒に活動しコミュニケーションをとりやすいよう工夫している。職員は利用者同士の関係が良くなるよう定期的に意見の交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(太陽)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様の要望に応じて相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりを通して一人ひとりの思いを汲み取るようにしている。カンファレンスで検討し本人の立場にたったケアを支援できるよう努めている。	日常生活の場での会話や観察を通して日々変化する思いや意向を把握している。	平成29年度目標達成計画の「アセスメントシートの作成」を実現できるよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族様からこれまでの暮らしや生活について入居後も、積極的にコミュニケーションをとり、サービス向上につなげるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりの出来る事、好きな事を把握し個別の支援を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様一人ひとりに担当者を付け、計画作成担当者を中心に、入居者様の想いを大切に出来るようアセスメントを行い、カンファレンスで話し合いをしている。	長期目標を1年間とし、介護計画の見直しをしている。心身状態の変化がある時は、随時見直している。アセスメント、計画の立案、モニタリングの介護過程を展開している。今後は、本人への説明を検討していく予定である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には、入居者様の様子や会話の内容を記入し送りノートを活用し情報共有ができるように努めている。またその内容をケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の身体状況やご家族様の生活状況の変化を踏まえ対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問美容の利用が出来るよう支援している。定期的にボランティアによる歌と演奏会を開催し、ユニット合同で楽しめる行事を実施している。近隣小学校との触れ合い、交流会を毎年実施している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診を月2回行っている。家族の意向を往診医に伝えたり、希望時には家族にも往診に同席して頂いている。また、他の医療機関への受診ができるよう家族に同行を依頼したり、職員が受診同行している。	往診を利用せず、長年診てもらっているかかりつけ医へ受診している利用者もいる。今後は往診以外の診療内容等について分かり易い記録を整備する予定である。	

ツクイ札幌山鼻グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(太陽)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同社の訪問看護ステーションより、看護職員が週1回派遣され、入居者の健康管理、職員からの情報や相談・医師との連絡調整を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は利用者様の情報を速やかに提供し、また退院時はスムーズにグループホームで生活が送れるよう、病院からの添書を職員全員で共有できるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様には、ご本人様の様子や状態を定期的に報告し、状況に応じて医師を交えた詳しい説明を行い、今後についてご家族と一緒に検討している。職員は看取り研修を実施し知識と理解に努めています。	入居時に「重度化した場合の対応に関わる指針」を説明し、同意を得ている。重度化した場合は、随時話し合いの場を設けている。内部及び外部研修で看取りの介護を学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には、医師、看護師、管理者への連絡を24時間体制で整えている。マニュアルを各ユニットに掲示している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中と夜間想定避難訓練を実施している。事業所が移転した為、避難訓練を早期に実施しなければいけない。又、複合施設の為、合同の訓練も検討します。	平成30年は夜間を想定した火災の避難訓練を行っている。消防署の協力を得て訓練後は事業所が設置しているAEDの使用方法や心臓マッサージの指導を受けている。今後は、5月頃を目処に火災以外の避難訓練をする予定である。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重し、さり気ない介助や言葉かけを実施しなければいけない。馴れ合いによる言葉の乱れが時折見られる為、研修や振り返りの時間を定期的、継続的に設ける。	全体会議で接遇マナーを学び、本人の意思を確認しながら話しかけている。馴れ馴れしい言葉遣いに注意し、名前の呼び方も「さん」付けとしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせた説明や自己決定ができるサービスを目指しているが、利用者様目線で考える職員一人ひとりの意識の向上が必要。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間、散歩など一人ひとりの意向を確認し、思い思いの時間が過ごせるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出やイベント時には、家族の意向を聞きおしゃれが出来るように、髭剃りや整髪、衣服の汚れ等、注意しております。		

ツクイ札幌山鼻グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(太陽)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を取り入れた食事を提供している。食事の下ごしらえや洗い物は職員の見守りの下行っている。外食や誕生日会などの行事を企画し、特別な食事も定期的に楽しんでいる。	複合施設の栄養士が献立を作成し、厨房で調理した昼食と夕食を利用している。朝食は、用意された食材でユニットの職員が調理している。外食や出前などを楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を日々記録し、不足がないよう注意している。個々の嗜好や、嚥下状態などにも配慮しながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声かけを行い習慣化できるよう支援している。介助が必要な方には口腔ケアの介助を行っている。また、週に1回訪問歯科による口腔内の治療、チェックを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、ADLに応じた介助を行っている。トイレでの排泄を基本とし、状態や能力に応じた最良の方法をカンファレンス時に検討している。	全員の排尿量や排便の有無を記録している。便秘気味の時は運動や水分で調整し、下剤を使用する事もある。事業所の移転時に環境変化の影響で失敗も見られたが、安定した対応で改善している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分量などを観察している。乳製品を必要時に提供し、便秘予防に努めている。状況に応じて主治医に相談している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	無理なく全利用者様が週2回の入浴を楽しんでいる。体調不良や気分が乗らないときには翌日に振り返るなど、配慮している。又、重度の方でも浴槽に入れるよう機械浴を完備しています。	手動式の入浴リフトを導入し、ユニット間の使用で利用者が重度化になっても全員が湯船に浸かれるように対応している。日曜を予備日とし、午後の時間帯に週2回の入浴を支援し、雰囲気づくりで入浴が楽しめるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活歴や習慣に合わせ、好きな時間に休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時は、連絡ノートに記載し情報共有し、体調の変化等に注意しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが可能な範囲内で役割を持ち、レクリエーションや体操など、生活にはりができるように努めております。ご家族から頂いた情報をもとに興味や嗜好品の確認も行っております。		

ツクイ札幌山鼻グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(太陽)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、極力散歩に出かける様に努めております。お花見や動物園など季節を感じられる外出行事を実施しております。	周囲を散歩したり、近所の店に出かけてソフトクリームを食べている。利用者の身体的な状態でユニットごとに外出場所を選んでいる。水族館や動物園で生きものと触れ合い、平岡梅林公園の花を見て季節を感じている。事業所移転後は近隣にある公園の散歩などを考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則現金のお預かりはせず、ご本人のご要望に応じて立替金にて購入をさせて頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご要望に応じて、事務所内にある電話を使用して頂いております。手紙や年賀状が出せる支援もしております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事に合わせて装飾をしております。各居室にエアコンが完備しており、冬は暖かく、夏は涼しく快適な温度管理を行っております。日当たりよく明るい事業所です。	玄関ホールを中心に左右にあるユニットの居間は広さが若干違うが大きな窓から光が入り明るい。加湿器や濡れタオル類で乾燥対策もしている。壁にはカレンダーや時計のほか、利用者が以前に撮影していたモノクロの動物や暮らしの写真が大きなパネルで飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースが広く、ソファを2つ設置し、自由にくつろげるようにしております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人、家族と相談しそれまで使っていた物や好みの物を配置しております。	居室には冷暖房の装置や造り付けの大きなクローゼットが備えてある。馴染みの丸いテーブルや椅子、整理ダンスなどが室内に持ち込まれている。家族の写真を飾り、時計などが置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや風呂場など分かるように表札をつけております。生活の導線に注意し、備品を設置しております。		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成30年12月1日に事業所が移転し、明るく、暖かい事業所になりました。移転後の混乱も数週間続きましたが、新しい環境にも皆様馴染んでおられます。移転後は協力医院が隣となり、24時間迅速な対応より可能になりました。設備に関しても全居室にエアコンが完備され、夏は涼しく・冬は暖かく快適に過ごせ、重度の方でも入浴ができるようリフト浴が設置されました。サービスとしてはご入居者様には外出の機会を多く持つて頂くために、外出行事多く企画しております。又、天気の良い日は散歩に出かけ外気に触れる機会を取り入れております。今後はボランティアの受入れにも力を入れ、入居者様が楽しめるイベントを増やしていきたいです。また、ご入居者様だけではなく家族も参加し楽しめる行事も企画していきます。また、グループホーム内で共用型のデイサービスを実施している為、将来グループホームの入居を検討されている方が、デイサービスを利用しながら待機して頂き、環境の変化が最小限に入居する事が可能です。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index_php?action_kouhyou_detail_2018_006_kihon=true&JigyosyoCd=0170100887-00&PrefCd=01&VersionCd=00

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目 :23.24.25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目 :9.10.19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目 :18.38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目 :2.20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目 :38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目 :4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目 :36.37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目 :11.12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目 :49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目 :30.31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目 :28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ひまわり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ともに・楽しく・すこやかに」という理念のもと、地域に根付いた真心のこもったサービスを目指している。理念を事業所に掲示している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度も、伏見小学校の生徒達の体験学習を受入れ、交流を持つ機会がありました。まだまだ地域とのかかわりが不足しているのが課題です。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、ご家族の方に事業所で実施している研修を発表しております。ご家族の方にも理解を深めております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回、運営推進会議を開催しサービス提供の内容報告を行っている。参加家族からのご意見は頂いているが、参加できない方からもご意見を頂ける工夫が今後は必要。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター職員には2か月に一度の運営推進会議に参加して頂いている。保護課担当職員とも来訪時や電話連絡をとり、協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束及び虐待に関する指針をもとに、GH全体会議の中で、定期的に身体拘束に関する勉強会の時間を設けている。スピーチロックなど、何気ない言葉かけが拘束に繋がる意識が、まだまだ足りないと感じる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束及び虐待に関する指針をもとに、GH全体会議の中で、定期的に身体拘束に関する勉強会の時間を設けている。スピーチロックなど、何気ない言葉かけが拘束に繋がる意識が、まだまだ足りないと感じる。		

ツクイ札幌山鼻グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ひまわり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を活用されている方は現在いない。キーパーソンの高齢化にともない、必要な方へは制度の説明を行い、いつでも活用して頂けるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書を読み合わせて説明を行い、質問には丁寧に答えし理解、納得をして頂けるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時には会話の場を持ち要望や苦情を聞き改善している。直接、言いづらい方の為に共用ホールに意見箱を設置している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員にアンケート用紙を配布し、全体会議で意見交換や伝達などを行っている。管理者だけではなく、本部長・エリア統轄の連絡先を掲示し対応できるよう配慮している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業契約更新時に個別の面談を行っている。日頃から出勤している職員には、少しでもコミュニケーションをとるように意識し、仕事の様子や表情など注意している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場全体で不足している部分を主に、研修や伝達を実施しているが、個別に対しての研修が十分ではない為、今後は内外問わず参加できるように努めます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会へ参加し意見交換を行い互いにサービス向上につなげてます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ひまわり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用開始前に施設見学をして頂いたり、実際に来る事ができない方へは訪問し、本人の声を聴き今後の生活について十分話す機会を設けてます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のみの面談や電話での相談を受け付けている。サービスを利用する不安や今後の生活での要望を伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様との面談にて必要としている支援を聞き入れると共に状況、状態を見極め市町村独自のサービスの利用も取り入れられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様一人ひとりの生活歴を大切に得意な事、出来る事を一緒におこなっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2ヶ月に一回「ふれあい便り」を送付し、家族が見られないグループホームの生活をお知らせしている。またご家族も参加できる行事を企画し、参加頂けるようお声がけしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が希望された所へ自由に電話が掛けられるようにしている。知人が来訪された時は、ゆっくりと自室や談話室を使用して頂けるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やレクリエーションなどで、利用者同士が一緒に活動しコミュニケーションをとりやすいよう工夫している。職員は利用者同士の関係が良くなるよう定期的に意見の交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ひまわり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様の要望に応じて相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりを通して一人ひとりの思いを汲み取るようにしている。カンファレンスで検討し本人の立場にたったケアを支援できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族様からこれまでの暮らしや生活について入居後も、積極的にコミュニケーションをとり、サービス向上につなげるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりの出来る事、好きな事を把握し個別の支援を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様一人ひとりに担当者を付け、計画作成担当者を中心に、入居者様の想いを大切に出来るようアセスメントを行い、カンファレンスで話し合いをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には、入居者様の様子や会話の内容を記入し申し送りノートを活用し情報共有ができるように努めている。またその内容をケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の身体状況やご家族様の生活状況の変化を踏まえ対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問美容の利用が出来るよう支援している。定期的にボランティアによる歌と演奏会を開催し、ユニット合同で楽しめる行事を実施している。近隣小学校との触れ合い、交流会を毎年実施している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診を月2回行っている。家族の意向を往診医に伝えたり、希望時には家族にも往診に同席して頂いている。また、他の医療機関への受診ができるよう家族に同行を依頼したり、職員が受診同行している。		

ツクイ札幌山鼻グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ひまわり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同社の訪問看護ステーションより、看護職員が週1回派遣され、入居者の健康管理、職員からの情報や相談・医師との連絡調整を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は利用者様の情報を速やかに提供し、また退院時はスムーズにグループホームで生活が送れるよう、病院からの添書を職員全員で共有できるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様には、ご本人様の様子や状態を定期的に報告し、状況に応じて医師を交えた詳しい説明を行い、今後についてご家族と一緒に検討している。職員は看取り研修を実施し知識と理解に努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には、医師、看護師、管理者への連絡を24時間体制で整えている。マニュアルを各ユニットに掲示している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中と夜間想定避難訓練を実施している。事業所が移転した為、避難訓練を早期に実施しなければいけない。又、複合施設の為、合同の訓練も検討します。		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重し、さり気ない介助や言葉かけを実施しなければいけない。馴れ合いによる言葉の乱れが時折見られる為、研修や振り返りの時間を定期的、継続的に設ける。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせた説明や自己決定ができるサービスを目指しているが、利用者様目線で考える職員一人ひとりの意識の向上が必要。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間、散歩など一人ひとりの意向を確認し、思い思いの時間が過ごせるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出やイベント時には、家族の意向を聞きおしゃれが出来るように、髭剃りや整髪、衣服の汚れ等、注意しております。		

ツクイ札幌山鼻グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ひまわり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を取り入れた食事を提供している。食事の下ごしらえや洗い物は職員の見守りの下行っている。外食や誕生日会などの行事を企画し、特別な食事も定期的楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を日々記録し、不足がないよう注意している。個々の嗜好や、嚥下状態などにも配慮しながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声かけを行い習慣化できるよう支援している。介助が必要な方には口腔ケアの介助を行っている。また、週に1回訪問歯科による口腔内の治療、チェックを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、ADLに応じた介助を行っている。トイレでの排泄を基本とし、状態や能力に応じた最良の方法をカンファレンス時に検討している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分量などを観察している。乳製品を必要時に提供し、便秘予防に努めている。状況に応じて主治医に相談している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	無理なく全利用者様が週2回の入浴を楽しんでいる。体調不良や気分が乗らないときには翌日に振り返るなど、配慮している。又、重度の方でも浴槽に入れるよう機械浴を完備しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活歴や習慣に合わせ、好きな時間に休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時は、連絡ノートに記載し情報共有し、体調の変化等に注意しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが可能な範囲内で役割を持ち、レクリエーションや体操など、生活にはりができるように努めております。ご家族から頂いた情報をもとに興味や嗜好品の確認も行っております。		

ツクイ札幌山鼻グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ひまわり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、極力散歩に出かける様に努めております。お花見や動物園など季節を感じられる外出行事を実施しております。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則現金のお預かりはせず、ご本人のご要望に応じて立替金にて購入をさせて頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご要望に応じて、事務所内にある電話を使用して頂いております。手紙や年賀状が出せる支援もしております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事に合わせて装飾をしております。各居室にエアコンが完備しており、冬は暖かく、夏は涼しく快適な温度管理を行っております。日当たりよく明るい事業所です。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースが広く、ソファを2つ設置し、自由にくつろげるようにしております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人、家族と相談しそれまで使っていた物や好みの物を配置しております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや風呂場など分かるように表札をつけております。生活の導線に注意し、備品を設置しております。		

(別紙4-2)

目標達成計画

事業所名 ツクイ札幌山鼻グループホーム

作成日：平成 31年 4月 10日

市町村受理日：平成 31年 4月 15日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	運営推進会議に於いて、入居者様とご家族様など参加頂いているが、地域住民の方の参加が少ない。	移転に伴い、環境の変化もあるのであたらめて地域住民や近隣事業所などと連携を図り、地域包括ケアにむけた話し合いが出来る様にしていく。また勉強会なども開催できるようにする。	①近隣事業所と連携を図り、会議を実施できるか確認をしていく。 ②研修会などを開催し、地域の方が来訪しやすい環境を作る。 ③家族もたくさん参加頂けるようにテーマを設定する。	1年
2	23	日常生活の場での会話や観察を通して日々変化する思いや意向をより把握できるように取り組んでいく。	スタッフ一同で共通認識の下、情報を共有できる形がとれるよう書式等の工夫を行っていく。	①管理者や計画作成担当者が中心となり、書式についての見直し等を行っていく。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。